

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



活用事例



概 要	
学 校 名	習志野市立第六中学校
活用方法	全教科の学習指導案の展開に、『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』の四つの学習過程を位置付け、明記している。また、『校内研究の視点』を示し、手立てを明確にしている。
成 果 等	授業者のめざす授業改善がどのようなものなのかを明確にすることができ、成果や課題について振り返りを行うことで、授業改善に向けた手立てを講じることができた。

【校内研究の視点】

校内で共通の六つの『研究の視点』を設定し、この中から各教科の視点を選択し、それをもとに授業を行う。1時間の授業において、二つから三つの視点を意識することで、重点活動を焦点化する。『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』を過程に位置付け、PDCAサイクルを意識した授業づくりを行う。

研究の視点	『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム
視点1〔学習活動の工夫〕 ①課題設定、課題提示 ②実生活と結びついた学習内容 ③教材開発（スライド、ワークシート、思考ツール） ④実験・観察	○見いだす 「疑問をもつ」 「課題を明確にする」 ○まとめあげる 「学んだことを確実に身に付ける」
視点2〔学習過程の工夫〕 ①基礎・基本（基礎学力や基本技能等）の定着 ②学んだことを定着させる活動	○見いだす 「既習の内容や方法を振り返る」
視点3〔場面設定の工夫〕 ①話し合い・学び合い・教え合いの場 ②表現活動	○自分で取り組む 「思いや考えを基に創造する」 ○広げ深める 「新たな考えに気付く」 「友達と互いに学び合う」
視点4〔学習形態の工夫〕 ①個人、班・グループ活動、一斉 ②相互鑑賞の機会 ③個別指導の助言	○自分で取り組む 「解決の見通しをもつ」 「自分の考えを形成する」 ○広げ深める 「自分の考えを伝える」
視点5〔評価の工夫〕 ①自己評価の仕方（振り返り活動・まとめ、評価カード、ワークシート、鑑賞活動） ②評価方法（ルーブリック）	○まとめあげる 「新たな疑問をもつ」 「学んだことをまとめる」

③評価規準表の作成と活用	
視点6 [ICT機器活用の工夫] ①全体でICT機器を活用する場面 ②個人でICT機器を活用する場面 (個人、グループ、ペア)	○自分で取り組む 「情報を収集し調べる」 ○まとめあげる 「思考の過程を振り返る」

【指導案例】(数学科略案)

『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』

- ① ICT 機器活用
- ⑦ デジタル教科書

(1) 本時の展開

時配 過程	学習活動と内容 学習活動(◎) 発問(○) 生徒の反応(・)	学習 形態	教師の指導・支援 (○) 評価項目・評価方法 (◎)
3分 7分	◎音声トレーニングを行う。 ◎学習課題を把握する。	ペア 一斉	○方向を知らせる。 ①資料をテレビに提示する。
見 い だ す	①市松模様 ②鱗模様 ③麻の葉模様 ④桧垣模様 ⑤七宝模様 ○どこかで見たことがありますか。 <生徒の予想> ・着物の柄 ・アニメのキャラクターの衣装の柄 ○どのような図形が含まれていますか。	個別	○日本の伝統模様を紹介し、模様の意味を説明する。 【学習活動の工夫】 課題に興味を持ち、学習に向かう。
	20分 自分で取り組む	◎学習課題に取り組む。 図形の移動について考えよう。 ○図の、色のついた三角形をどのように移動させたら、㊶、㊷、㊸の三角形と重なりますか。	一斉 個別 【場面設定の工夫】 自分の考えた移動方法を積極的に伝えようとしている。
	～省略～		

研究の視点と生徒の活動

(2) 視点に対する振り返り

本時の研究の視点に対して、○生徒の活動、☆自己肯定感を高める場面、◎目指す活力ある生徒の姿を明記して、振り返りを行い、生徒の変容をみる。

視点	内容	○生徒の活動 ☆自己肯定感を高める場面 ◎目指す活力ある生徒の姿
視点1	【学習活動の工夫】 ①課題設定、課題提示 ②実生活と結びついた学習内容	○課題に興味をもち、学習に向かう。 ☆意欲的な姿が見られる場面。 ◎自ら考え、自ら進んで活動できる姿。
視点3	【場面設定の工夫】 ①話し合い・学び合い・教え合いの場	○自分の考えた移動方法を積極的に伝えようとしている。 ☆自分の意見や考えを積極的にいうことができる場面。 ◎自分の意見をもち、伝えられる姿。

*本校研究主題『活力ある生徒を育てる授業の創造～自己肯定感を高める授業づくり～』の実践の柱として、「校内研究の視点」と「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を関連付けた。